

揮毫 心寺長老 高口恭行師



2022年11・12月号
号外 11
2022

発行：NPO 法人 まち・すまいづくり
発行人：竹村伍郎
TEL&FAX：06-6779-7222
http://www.machi-sumai.com/
uemachi@machi-sumai.com
〒543-0043
大阪市天王寺区勝山1-11-29

「上町台地」名所図会

第1回
あべのハルカス
(阿倍野区)

かつて上町台地は大阪湾に突き出た細長い半島でした。先端だった場所に立つのが大阪城、根元あたりに鎮座するのが住吉大社。そしてへそにあたる部分に2014年、巨大なランドマークが誕生しました。あべのハルカスは高さ300メートルを誇る日本一の超高層ビルです。売場面積日本一の百貨店のほか、美術館、ホテル、展望台、鉄道の駅まで擁しています。

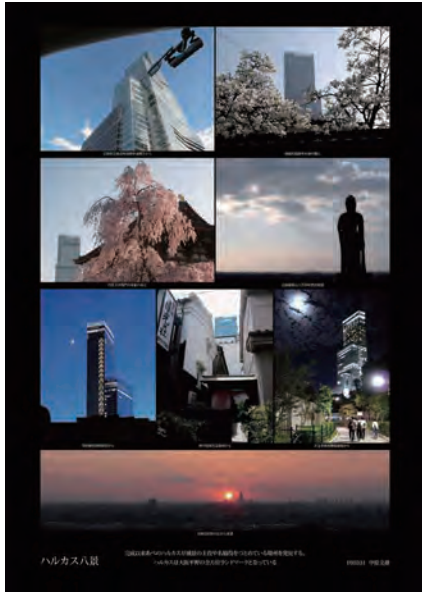
名称の「ハルカス」は洋風ですが、「人の心を晴れ晴れとさせる」という意味をもつ古語「晴るかす」に由来するそうです。一方、「あべの」がひらがななのは、「阿倍野」「阿部野」「安倍野」「安部野」など漢字表記がいくつもあり定まらないからでしょう。このうち文献上で一番古いのは「安部野」。もともと、古代豪族の阿倍氏(のち安倍氏)の本拠だったことが土地の始まりだったとするなら、「阿倍野」が正統なのかもしれません。

左の写真のように「てんしば」(天王寺公園)が最もポピュラーなビュースポットですが、これだけ巨大な建造物です。右の組み写真のように、人それぞれお気に入りの場所、思い入れのある場所、があつて不思議ではありません。私の場合、夕日に映えるハルカスを飛行機から見たとき、思わず「きれいなあ」とつぶやいていました。あなたもお気に入りの場所を探してみてください。

かつて上町台地は大阪湾に突き出た細長い半島でした。先端だった場所に立つのが大阪城、根元あたりに鎮座するのが住吉大社。そしてへそにあたる部分に2014年、巨大なランドマークが誕生しました。あべのハルカスは高さ300メートルを誇る日本一の超高層ビルです。売場面積日本一の百貨店のほか、美術館、ホテル、展望台、鉄道の駅まで擁しています。



ハルカスとてんしば



ハルカス八景(中原作)

中原文雄 / 写真

1948年生まれ。建築工房日想舎 主宰。NPO法人まち・すまいづくり会員。

松本正行 / 文

1965年生まれ。ライター・編集者。NPO法人まち・すまいづくり会員。

※名所図会(ずえ)とは名所の来歴などを絵も交え紹介したもの。
※「WEBうえまち」(https://note.com/uemachi/)連載の「上町台地」名所図会より、みなさまからの反響が大きかったものを、本号外でも掲載いたします。



相羽秋夫の

らくご ハローワーク

第11職 関取は大きく見えるが『半分垢』

プロスポーツの中で、独自の「社会」を形成している大相撲(日本相撲協会)。そこに所属する競技者を相撲取(とり)又は力士と呼ぶ。中でも、十両以上の力士は関取(せきとり)と言う。本来は最高位であった大関を指す敬語だった。
歴史書「古事記」には、建御雷(たけみかづち)神と建御名方(たけみなかた)神が、力競べをして国譲りをしたと書かれている。
その後、『日本書紀』の第11代垂仁天皇紀に、出雲の野見宿禰(のみのすくね)と奈良葛城市の当麻寺(あたりのま)の当麻蹴速(たいまのけはや)が力競べをして野見が勝ったと記されている。これが相撲の始まりとされる。
奈良期の第45代聖武天皇が全国から相撲人(びと)を集め、宮中で「節会(せちえ)相撲」を催した。



室町期に入り職業力士が誕生し、江戸期に隆盛を見せた。当初は名譽の地位だった横綱の初代は明石志賀之助。さらに、谷風梶之助や小野川喜三郎ら名横綱が誕生した。1909年に国技館が建造され、国技として現在に至っている。
落語の世界にも「相撲場風景」「佐野山」「花筏(いかだ)」など、相撲がテーマの噺は多いが、その中から、少し珍しい「半分垢」をご紹介します。
旅興行から久しぶりに自宅に帰ってきて休息している関取の所に、最良(ひいき)客が訪れる。関取の妻は、ここぞとばかり、夫を大きく見せるために法螺(ほら)を吹く。それを聞いた関取は、妻に「もっと謙虚になるように」と諭す。次に訪れた客が「関取は大きな体ですな」と誉めると妻「いいえ、大きいようでも半分は垢です」。
◇ 水死体(すいしだい)のことを、土左衛門(どざえもん)と呼ぶのは、江戸期の力士、成瀬川土左衛門の顔が水死体(すいしだい)にそっくりだったことから付いた、ありがたかないニックネームだ。いや似付(にっ)くネームである。

NPO法人「まち・すまいづくり」活動報告

お問い合わせはNPO法人「まち・すまいづくり」まで
TEL:06-6779-7222

「復活」に向け進行中!
新サイト
「うえまちweb」
が誕生します

2020年8月より休刊している上町台地界隈の情報紙「うえまち」が、このたび新たにWEBサイト「うえまちweb」として復活します。

上町台地界隈の今がわかるニュースやイベント情報、本号外で連載中の記事もご覧いただけます(作品配信サイト「note」での記事掲載は近日終了予定)。地域のさまざまなお店・施設・企業にアクセスできる「うえまち長屋」と題したリンク集のページも開設予定です。掲載希望はうえまち編集局へご連絡ください。現在はまだ試運転中ですが、紙の「うえまち」同様、ご愛顧・ご愛読いただきますようお願いいたします。



- 「うえまちweb」の主な企画
 - うえまちニュース(町で拾った役立つ情報・楽しい話)
 - イベントカレンダー
 - 連載「らくごハローワーク」
 - 連載「上町台地名所図会」
 - うえまち長屋
 - 上町台地界隈の情報紙「うえまち」バックナンバー(名称は今後変更の可能性あり)

https://uemachi-web.net/



揮毫 心寺長老
高口恭行師



2022年11・12月号

号外 12
2022

発行：NPO 法人 まち・すまいづくり
発行人：竹村伍郎
TEL&FAX：06-6779-7222
http://www.machi-sumai.com/
uemachi@machi-sumai.com
〒543-0043
大阪市天王寺区勝山1-11-29

「上町台地」名所図会

第2回
住吉大社 反橋・
石灯籠(住吉区)

大阪生まれのノーベル賞作家・川端康成は、幼いころに両親を亡くし孤獨な心を抱えていました。その彼が幼心に覚えているのが、母に手を引かれて住吉大社の反橋(太鼓橋。写真左)を渡った情景だといいます。そして短編『反橋』に次の一節を書き加えたのです。

「反橋は上るよりもおりる方がこわいものです」
川端が描いた当時の反橋には今のような階段はなく、つま先をひっかけた穴があっただけでした(階段がつけられたのは1955年のことです)。そのため、彼が書くように恐怖を感じてもおかしくはありません。それだけに、この橋を渡るだけで「お祓い」になると人々から信じられたようです。

住吉さんの境内に600基以上もある石灯籠も人々の思いが込められたものです(写真右)。荒波を越えて各地に繁栄をもたらした北前船の人たちを中心に、さまざまな業界の人が「航海の神」である安全を祈願し寄進しました。なかには高さが12m近くにも及ぶものもあります。

ちなみに、この石灯籠群は「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間(北前船寄港地・船主集落)」として日本遺産に認定されています。

他にも、初辰参りなど様々な民間信仰が住吉さんでは見ることが出来ます。上町台地の根っこは、古代から続く日本屈指の「信仰の聖地」として過言ではないでしょう。



長さ約20m、高さ約3.6mの反橋



チンチン電車沿いにも石灯籠が並ぶ

中原文雄／写真

1948年生まれ。建築工房日想舎 主宰。NPO法人まち・すまいづくり会員。

松本正行／文

1965年生まれ。ライター・編集者。NPO法人まち・すまいづくり会員。

※名所図会(ずえ)とは名所の来歴などを絵も交え紹介したもの。
※「WEBうままち」(<https://note.com/uemachi/>)連載の「上町台地」名所図会」より、みなさまからの反響が大きかったものを、本号外でも掲載いたします。



相羽秋夫の

らくご ハローワーク

第12職 『道具屋』は客の手元で値を定め

筒に指が入って取れなくなってしまう。男、ここぞとばかり「取れなければ、買ってください」と言ってみる。客は怒って「ひとの足元を見るな」と抗議すると、男「いや、手元を見ている」。

大阪市中央区千日前の「なんばグランド花月」前から南に伸びる細い道路の両側には、道具屋がびっしり建ち並ぶ。この道を「道具屋筋」と呼ぶが、ここでは新品の道具を売る店ばかりである。

川柳に曰く「十六で娘は道具揃いなり」の句は、16歳になった娘は、嫁入り道具ともう一つの道具も揃ったと喜んでいて、との意だ。「今はもう小便だけの道具なり」は、男性の悲哀を描く。この2句の道具は容易に想像がつこう。

江戸初期に大流行した「道具屋筋」という古浄瑠璃の一派がある。大坂在住の道具屋吉左衛門が創流した剛健な語り口の節である。

「骨董飯(ほん)」というものもあるが、こちらは五目飯・加菜(かやく)飯・味付飯のことである。

と、この稿を書いて疲れたので伊予の国・松山の「道具温泉」に行こうと思う。それも言うなら、道後温泉じゃ!

◇ おじの世話で路上に店を出す道具屋を始めた男がいた。男は生来ずばらな性格で、来る客来る客を応対のまずさで帰してしまう。

少しあせり出したところへ、やって来た客は、古びた笛を取り、矯(た)めつ眇(すがめ)っしているうちに、笛の



大人のための

文章教室

ライター・編集者 松本正行

身内を敬うのはNGとは知っているが…

社長のお噂は、部長よりかねがねうかがっています。

敬語は本当に難しい。たとえば、例文のような表現はごくごく普通に使われています。実際、どこがおかしいの? と思った人は多いことでしょう。しかし、「身内を立ててはいけない」という原則からすれば明らかに間違いなのです。どこがおかしいのでしょうか。

社長の噂はかねがねうかがっています。

違いは「部長より」があるかないか。例文だと「うかがう」という敬語の対象が部長になり、話し手が部長に対してへりくだった形になってしまいます。そのつもりはなくても誤解を招きかねません。一方、修正文は「部長より」がないため、きちんと社長に敬意を表せています。あえて部長を入れるのなら、「部長を通して、社長のお噂はうかがっています」くらいにすべきでした。

「お隣の窓口で手続きをお願いします」も市役所などでよく聞きそうですが、これも「お隣の」ではなく単に「隣の」にすべき。丁寧な言い方という姿勢自体はいいのですが、裏目に出ることもあるので注意したいものです。

上町台地上にある高津高校出身。新聞社・出版社勤務を経て、現在、Webや雑誌等で活躍中。NPO法人「まち・すまいづくり」会員。